

採血部位はしっかり押さえる？

2024年7月20日

『そもそも論』の第23回は、「採血部位はしっかり押さえる？」です。健診などで採血が終わると丸や四角の絆創膏が貼られ、「しっかり押さえてください」と言われます。これは正しいでしょうか。

採血は静脈から行われます。腕の静脈の内圧は5mmHg前後で、採血針をぬくとジワッとにじみ出てくる程度です。動脈の内圧(すなわち血圧)の120や150に比べるとずいぶん低い値なのです。

そのため、針を抜いた後に強く押さえると静脈が潰れて血液が流れなくなり、穿刺部位の凝固機序が働きにくくなって止血に時間を要します。また駆血帯を巻いたのと同じ状態になり、圧迫部位の上流にあたる手のひら側の内圧が上がって血管が膨らみますし、押さえる部位がもし肩側にズレると穿刺した部位に上昇した内圧がかかってかえって出血しやすくなってしまいます。力を入れると位置がズレやすいのです。

よって静脈採血の後は、指1～2本を“ふわっと当てる”程度(添付イラスト)で十分です。



イラスト：川村 孝